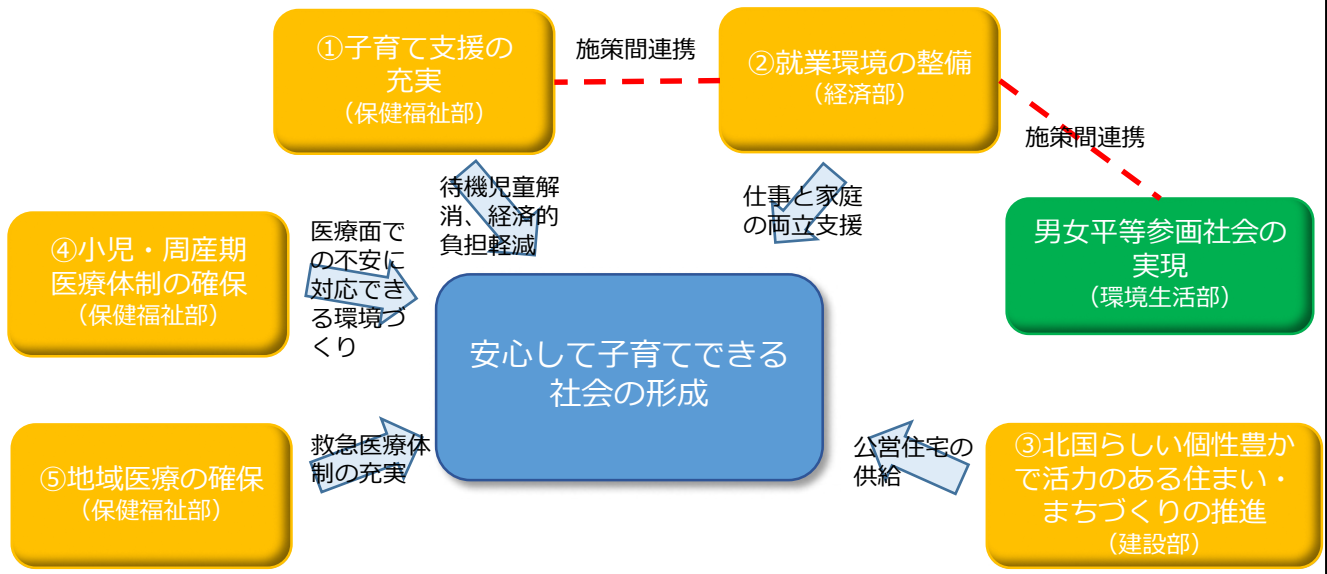


1 分野：生活・安心
 (1) 政策の柱：安心して子どもを生育できる環境づくりの推進
 B 政策の方向性：安心して子育てできる社会の形成

【政策の方向性と施策の関係】



施策名	課題等	主な取組 《内はコロナの影響》	総合評価
①子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 待機児童の解消が図られていない 実際に持つ子どもの数が少ない理由に、経済的な理由が最も多く挙げられている 	<ul style="list-style-type: none"> 〇認定こども園等整備費用に対する助成 〇子育て世帯の負担軽減等による支援 〇保育士等キャリアアップ研修への支援 〇医療的ケア児を受け入れる体制整備に要する費用への支援 	効果的な取組を検討し引き続き推進
②就業環境の整備 (※)	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少や少子高齢化の進行 仕事と家庭の両立支援、女性が活躍できる職場環境整備が重要 企業、働き手双方への効果的な支援施策の推進が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 〇仕事と家庭を考えるシンポジウムの開催 〇出産・育児・介護に関する支援制度等を紹介する両立支援ハンドブックの作成、配布 〇働き方改革推進企業認定制度や女性の活躍推進に取り組む企業への表彰《シンポジウムの中止等》 	効果的な取組を検討し引き続き推進
③北国らしい個性豊かで活力のある住まい・まちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援などに対応した道営住宅の整備を推進することが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 〇子育て支援などの地域課題・広域的な需要に対応した公営住宅整備の推進 	概ね順調に展開
④小児・周産期医療体制の確保 (※)	<ul style="list-style-type: none"> 小児救急医療提供体制の充実など、子育て中の医療面での不安に対応できる環境づくりを推進する必要 	<ul style="list-style-type: none"> 〇保護者等の不安軽減や時間外受診の緩和を図るため、小児救急電話相談を実施 〇初期から三次救急医療に至る体系的な医療提供体制の充実 	効果的な取組を検討し引き続き推進
⑤地域医療の確保 (※)	<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域での支援体制の整備が求められる 迅速な救急搬送体制が必要 災害の種類や規模に応じて医療資源を有効に活用する必要 	<ul style="list-style-type: none"> 〇道の救急医療体制の現状や課題等について、協議・検討 〇地域の救急医療体制の情報共有や連携 〇災害医療体制について、関係機関と連携の構築 	効果的な取組を検討し引き続き推進

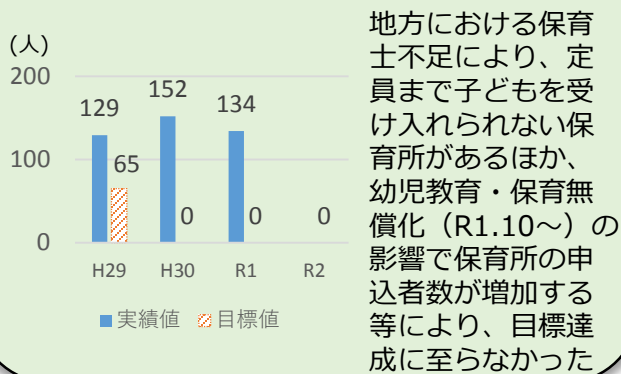
1 分野：生活・安心

(1) 政策の柱：安心して子どもを産み育てることができる環境づくりの推進

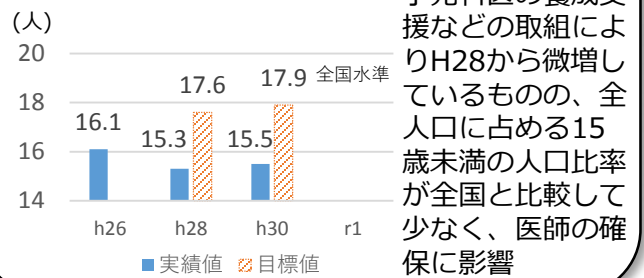
B 政策の方向性：安心して子育てできる社会の形成

【総合計画の指標】

保育所入所待機児童数(人) (施策①)

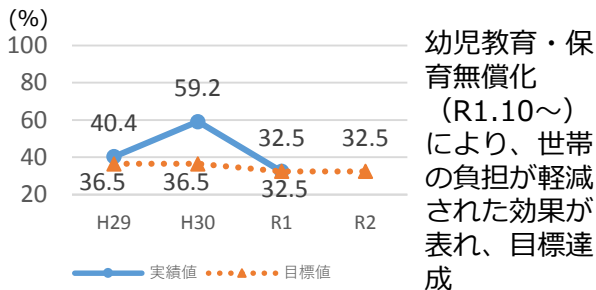


小児科医師数 (小児人口 1 万人当たり) (暦年) (施策④⑤)

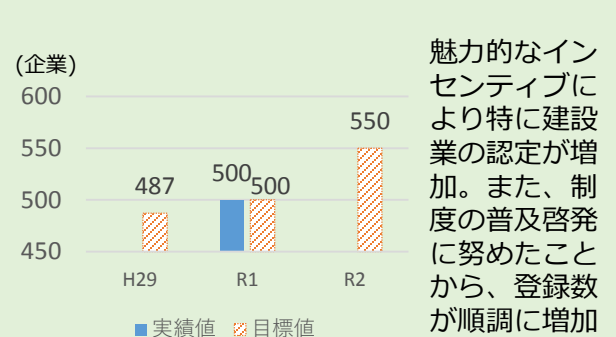


【関連指標】

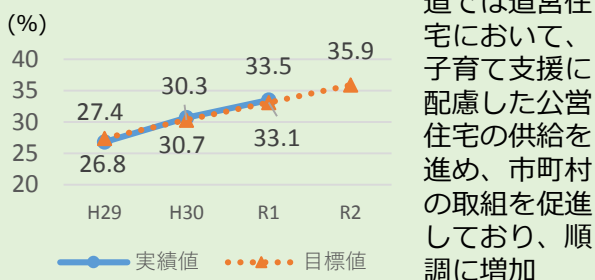
理想とする子どもの数を持ってない理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と考える人の割合 (%) (施策①)



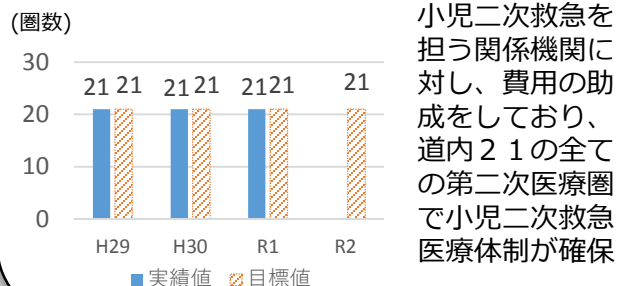
北海道働き方改革推進企業認定数 (施策②)



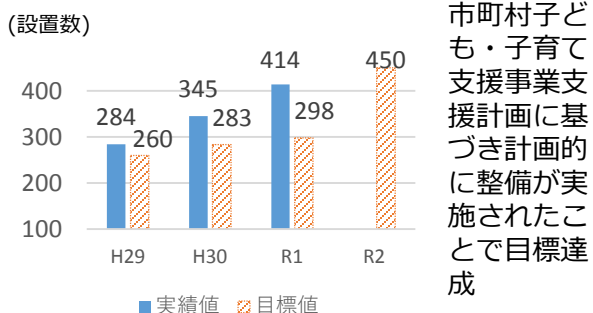
子育て支援に配慮した公営住宅などを供給している市町村数の割合 (施策③)



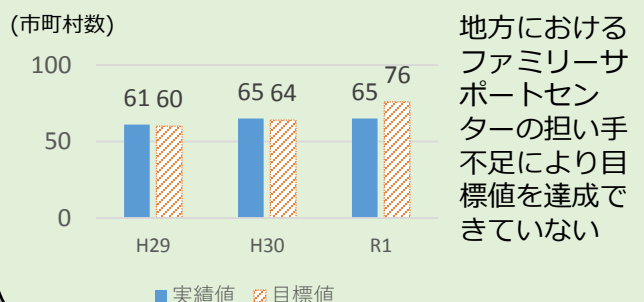
小児二次救急医療体制が確保されている第二次医療圏数 (医療圏) (施策④)



認定こども園設置数 (施策①)



ファミリーサポートセンターを設置している市町村数 (施策①)



【ほか4つの関連指標】